

# 平成13年度漁協青壮年部巡回移動相談実施

瀬底 正 武

## 1. 目的

漁業技術の高度化や栽培漁業技術の普及定着化、さらには資源管理に基づいた計画的な営漁方法の導入等広くかつ、高度な知識や技術の習得、地域の協同化意識など青壮年部・青年漁業士等の一層の資質の向上が求められている。このように、地域の問題や漁業技術等積極的に解決していくためには、青壮年部や青年漁業士等中心とした、各漁業種類別の部会や班を設置し研究活動を活発にして、地域漁業の先達となって安定した漁業経営を図る必要がある。そのためには、活動の目標を明確にし新しい協同意識を高めつつ、漁協と青壮年部との横の関係を重視し共通性にもとづく連携活動が青壮年部活動の基本である。

そういったことに鑑み、青壮年部の移動相談を通して活動の実態等把握し、今後の青壮年部活動の方向性をみいだすために実施した。

## 2. 巡回相談目標

- 1) 各青壮年部を巡回し、青壮年部活動を積極的に支援する。
- 2) 年度毎に活動の実態を調査し、実態に即した組織活動のあり方等指導する。
- 3) 部会、班設置に向けての活動計画の作り方等積極的に指導する。
- 4) 同移動相談に当たっては、指導漁業士等積極的に参画させ指導助言等仰ぐ。
- 5) 移動相談終了後、一年間の総括として、部長事務局会議を開催する。

## 3. 対象

漁青連に加入している12漁協青壮年部について実施した。

## 4. 平成13年度巡回相談内容

### 1) 普及センター情報

- ア. クビレオゴノリの養殖について  
.....瀬底センター長
- イ. トコブシの養殖技術について  
.....與那嶺専門技術員
- ウ. ニライ号等漁船漁業に関する情報  
.....。金城主任技師

### 2) 青壮年部活動についての意見交換

- ア. 平成12年度部長事務局会議（総括会議）経過報告
- イ. 各青壮年部活動状況報告

## 5. 「計画策定」青壮年部巡回相談

青壮年部活動計画策定漁協を選定し、活動計画のモデル化を図りマンネリ化した青壮年部活動の支援と漁協の活性化、ひいては各青壮年部への波及効果を図る目的で実施する。方法は「KJ法」による活動テーマの抽出を行い、可能な課題については数回の討議を経て決定し計画化する。

\*計画策定漁協：沖縄市漁協青壮年部、伊江漁協青壮年部を予定していたが計画化までには至らなかった。

## 6. 日程（平成13年7月～平成14年3月）

青壮年部	開催日	青壮年部	開催日
石川市漁協	12月17日	伊良部漁協	9月26日
港川漁協	未開催	知念村漁協	未開催
沖縄市漁協	7月23日	久米島漁協	8月22日
伊江漁協	10月18日	勝連漁協	11月19日
糸満漁協	未開催	恩納村漁協	7月31日
八重山漁協	9月7日	那沿岸漁協	休部

\*部長事務局会議は平成14年7月5日開催。

7. 実施及び協力機関

- 1) 実施機関：水産試験場普及センター  
電話 098 (994) 4304

- 2) 協力機関：沖縄県漁業協同組合連合会  
漁政企画課

### 平成13年度漁協青壮年部巡回移動相談開催順

進行：與那嶺専技

- 1. 開催にあたって
- 2. 移動相談の進め方
- 3. 移動相談内容
  - 1) 平成13年度巡回移動相談実施計画について
  - 2) 平成12年度青壮年部活動状況の総括  
(青壮年部長事務局会議)
  - 3) 平成13年度水産業改良普及事業計画  
内容紹介

4. 普及センター情報

- 1) トコブシの養殖技術について  
..... 與那嶺専門技術員
- 2) マグロの鮮度保持について  
..... 金城主任技師
- 3) クビレオゴノリの養殖について  
..... 瀬底センター長
- 5. 青壮年部活動状況報告 (部長・事務局)
- 6. 意見交換
- 7. 閉会

### 漁協青壮年部部長事務局会議順

進行：與那嶺専技

- 1. 会議内容
  - 1) 開催にあたって..... 水試場長
  - 2) 会議の進め方..... 事務局
  - 3) 平成12年度漁協青壮年部巡回移動相談の実施 (平成13年度水産業改良普及事業実施スケジュール)  
..... 事務局
  - 4) 講演  
テーマ「組織活動と青壮年部の役割」  
講師：沖縄県農林水産部営農推進課  
主任専門技術員 本村隆信氏

5) 『66式』による全体討議

- (討議方法説明)  
テーマ「青壮年部活動を永続的なものにするには」  
総合司会：水産試験場普及センター (瀬底)
- 2. 全体の総括と意見交換  
(講師の助言等仰ぐ)..... 事務局
- 3. 水試情報  
「パヤオにおけるキハダ・メバチの回遊と流れ」 漁業室・鹿熊室長・太田研究員
- 4. 閉会..... センター長

### 総 括

テーマ

「青壮年部活動を永続的なものにするには」  
結成当時は活発に活動した青壮年部が、年数がたつにつれ活動が鈍ってくる。ということ

よく聞きます。このように青壮年部活動が停滞する原因はいろいろあると思いますがたとえば会員の協力が得られない。したがって課題を取り上げても解決できない。外部指導者 (県、漁

連、水試、水産改良普及員)の協力と理解がない等々その問題は数多くありますが、しかし、もっとも大きな原因は青壮年部の指導者(幹部)の考え方、そしてあり方である。発足当時の指導者が、年齢的とか、組合内部(役員)に入るとか、理由はともかく、青壮年部からひいて(引退)しまった後は、名目だけの青壮年部となり、活動ができなくなるといった例は少なくないようです。こういった事例を移動相談等でよく聞かされます。(前部長の時には活発だったが、部長が変わったら不活発になった。活発だった頃の活動の様子が分からないとか、教えてくれない等)結局、この場合初代指導者あるいは、前部長の考え方が、自分が指導者の立場にある時だけは活発な活動をしようとして一生懸命になり、指導者としての責任を全うするといった立派な活動をしますが、自分中心の青壮年部ということしか考えず自分が退いた後の後継指導者として、誰を当てるかというような青壮年部の永続

的な発展を考えてないので、このような現象が現れるのだと思う。

ならば「青壮年部活動を永続的に発展させるには」指導者は青壮年部活動は勿論、常に次の指導者の育成に心がけるようにしなければならない。青壮年部活動を発展させるものは指導者1人ではなく、「会員の団結」という原動力でなければなりません。指導者1人で、きりもりしようとする、マンネリ化して青壮年部員の協力もうすれ、活動が鈍り、次代の青壮年部長も育たないことになります。指導者(青壮年部長)を育てるには、部員一人一人に青壮年部員として自覚を高めさせ、これを活用できる青壮年部員として認められるよう育てなければなりません。これには長く時間がかかりますが、その成長していく過程の良き相談役となり、協力しながら、暖かい気持ちで見守っていくような指導者であってこそ、本当の指導者といえると思う。

## 会 員 名 簿

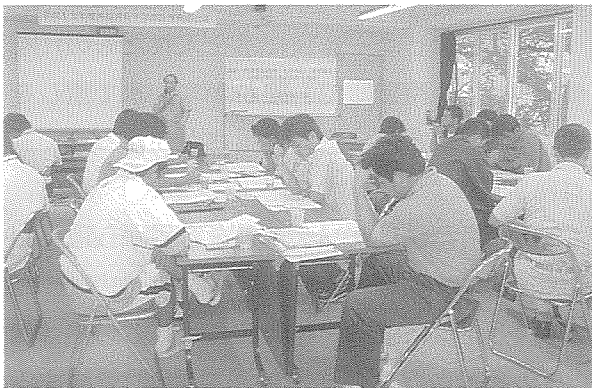
平成13年4月1日現在

	青年部名	部長名	部員数	設立年月日	加入年月日
1	石川市漁協青壮年部	玉城正勝	11	S53. 4. 1	S53. 4. 6
2	港川漁協青壮年部	金城和徳	22	S56. 1. 1	S53. 12. 3
3	沖縄市漁協青年部	小嶺 仁	13	S59. 6. 7	S53. 12. 4
4	伊江漁協青壮年部	宮城英樹	20	S53. 11. 16	S53. 12. 4
5	糸満漁協青壮年部	大城英明	26	S51. 9. 17	S53. 12. 4
6	八重山漁協青壮年部	西里政晃	30	S52. 12. 3	S53. 12. 5
7	伊良部町漁協青壮年部	池間勝徳	12	S59. 11. 3	S53. 12. 5
8	知念村漁協青壮年部	内間待仁	31	S59. 11. 1	S53. 12. 7
9	久米島漁協青壮年部	国吉真栄	36	S57. 1. 18	S60. 1. 10
10	勝連漁協青壮年部	上原哲文	20	S60. 4. 25	S60. 10. 22
11	恩納村漁協青壮年部	林 一也	22	S61. 7. 26	S60. 8. 5
12	那覇市沿岸漁協青壮年部	名嘉村 彰	20	H2. 9. 8	H2. 9. 12
	合 計		263名		

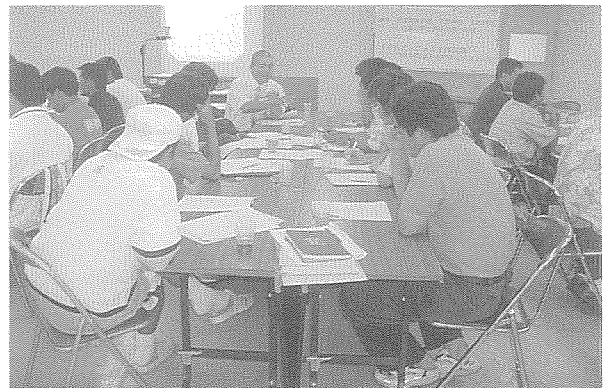
# 役員名簿

平成13年4月1日現在

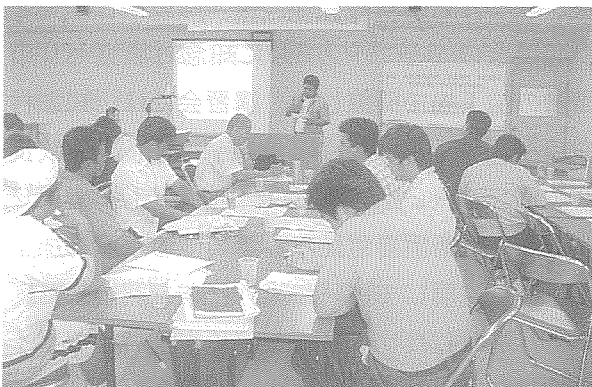
役職名	氏名	所属青壮年部名
会長	比嘉康雅	八重山漁協青壮年部
副会長	小嶺仁	沖縄市漁協青年部
委員	玉城正勝	石川市漁協青壮年部
〃	与座嘉雄	久米島漁協青壮年部
〃	吉山盛安	恩納村漁協青壮年部
監事	新屋光彦	勝連漁協青壮年部
〃	金城勇	伊江漁協青壮年部



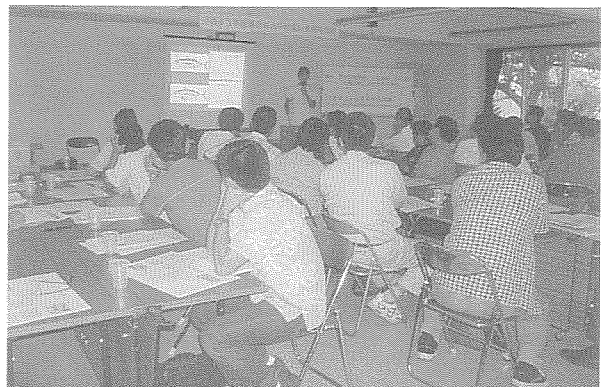
「組織活動と青壮年部の役割」と題して講演された沖縄県農林水産部営農推進課 主任専技 本村隆信氏



討議終了後各班毎の発表の様様



「青壮年部活動を永続的なものにするには」をテーマにグループ討議の様様



水試情報「パヤオにおけるキハダ・メバチの回遊と流れ」について漁業室の太田研究員による報告